



国民の森林・国有林

中部森林管理局

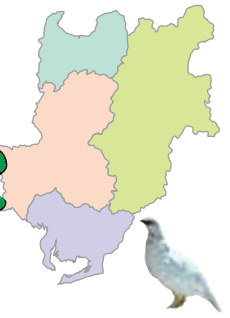
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



# 賀正

南アルプス仙丈ヶ岳から望む日の出

主な項目	○ 奥田局長年頭所感 .....	P 2
	○ 各地からのたより .....	P 4
	○ 寄稿 上松町での買物 .....	P 6
	○ シリーズ「森林官からの便り」 .....	P 7
	○ 2014年 主な出来事 .....	P 8
	○ シリーズ「ご当地自慢」 .....	P 10



## 年頭所感

# 林業再生を現実のものに

中部森林管理局長 奥田 辰幸

新年明けましておめでとうございます。

読者の皆様におかれましては、つがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、七月の南木曾町の土石流災害に始まり、八月の飛騨地方の豪雨災害、九月の御嶽山の噴火災害、そして十一月の長野県神城断層の地震災害と災害対応に追われた一年でした。

特に、御嶽山の噴火では戦後最悪の火山噴火災害ということで多くの犠牲者を出し、自然災害の恐ろしさを目の当たりにしました。

中部森林管理局といたしまして

は、引き続き関係機関と十分連携する中で、被災者の立場に立った適切な対策を実施し、地域住民の皆様方に安全・安心をお届けすることが出来るように取り組んで参ります。

国有林野事業は、本年四月に一般会計に移行して三年目を迎えます。

これまで二年間、「公益重視の管理経営の一層の推進」、「森林・林業再生への貢献」、「山村地域の振興と森林の総合利用」を目標に様々な取組を行って参りましたが、少しずつその成果が出つつあります。

そうした実績を背景として、国産材の安定供給と効率的な施業を武器に、国有林が先頭に立って、林業

の再生にチャレンジしていきたいと考えています。

局管内の人工林の齢級別蓄積を見た場合、十齢級以上が既に七割を占め資源は充実しています。高性能林業機械は五―一台導入され、林道や作業道の整備も着実に進んでいます。今年一年間に管内で新たに整備される大型の製材工場、木質バイオマス発電施設の木材使用量は、一年間で三〇万立方メートルにも及ぶとともに、公共施設の木造化・木質化も着実に進んでいます。林業再生のチャンスは、まさに目の前に転がっています。

関係者が一体となって、国産材を

低コストで生産し、質・量・価格の安定供給を行うことにより、林業の再生が現実のものとなり、山村地域での雇用の創出や地域の活性化に貢献することが出来ると思います。

中部森林管理局では、今年も国有林の使命達成のために、こうした諸課題に職員が一丸となって取り組んで参りますので、皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様方の今年一年間のご多幸とご健勝を祈念しまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

# 今年の干支は乙未



羊は「祥」に通じ、中国の吉祥動物の一つです。群れをなす（一頭が動くといて行く）ことから「家族の安泰」を表すとされ、いつまでも「平和」をもたらす縁起物とされています。

「未」の干支の特徴としては、「穏やかで温かく、優しい。正義感が強く、真面目」だと言われています。

また、財テクの才能があると言われる、財を成すのに向いている人も多いようです。

未年生まれの有名人をあげると一九五五年・ステイブ・ジョブス、ビル・ゲイツ、一九六七年・俳優の織田裕二、一九七九年・女優の仲間由紀恵、一九九一年・プロゴルファーの石川遼といった方々がいます。

過去に起きた未年の出来事を紹介しようと、一九四三年・東京府と東京市が統



羊の群れ (岐阜県中津川市にて)

合され東京都が誕生、一九九一年・ソビエト連邦崩壊、ゴルバチョフ大統領が辞任、二〇〇三年個人情報保護法が参議院本会議で可決され成立などがありました。

今年一年、穏やかに過ごしたいものです。

## 「輸出向け木材産地連携検討会議」

### 中部地方

「名古屋事務所」十一月十三日、(一社)日本木材輸出振興協会が、静岡県男女共同参画センターにおいて、中部地方「輸出向け木材産地連携検討会議」を開催しました。

この会議は、「農山漁村六次産業化対策事業・輸出に取り組む事業者向け対策事業(農水省補助事業)」として行われたもので、中国、韓国をはじめ、海外における日本産木材のジャパン・ブランドの確立を大きく進展させ、農林水産物・食品の輸出額を平成三十二年までに一兆円水準とする政府目標の達成に寄与することを目的としています。全国を四ブロックに分けて取り組まれており、各地区の検討会議終了後、三月には全国統一の会議が予定されています。

会議には、学識経験者、国、県、木材産業に関わる関係者ら三十数名が参集し、事務局から、本検討会議の目的と検討内容などの趣旨説明の後、鹿児島大学



会議の様子

遠藤教授より、「国産材輸出の現状と課題」供給サイドの視点から」と題して、講演がありました。講演では、南九州からの原木の海外輸出量が国内で断トツであることやその中でも特に鹿児島県志布志港からの輸出货量の飛躍的な増加が見られるなど、その現状や理由に触れられ、輸出向け木材の可能性についてお話しがありました。

講演の後、意見交換が行われ、「輸出向け木材」については、流通システム等が確立されていない中、見えない部分が多く、一つ一つ整理し、オールジャパンで取り組んでいく必要があることが確認されました。

## 東三河木材供給システム構築事業 現地検討会

「名古屋事務所・愛知所」十一月二十日、愛知県新城市内において、愛知県

新城設楽農林水産事務所主催の「平成二十六年 東三河木材供給システム構築事業・現地検討会」が開催され、中部局から名古屋事務所、愛知所が参加しました。

この構築事業は、「豊富な森林資源を有する東三河地域において、急峻な地形における皆伐施業の生産性の実証を進め、林業の活性化を図る」ことを目的に進められています。

このため、林地傾斜三〇度、林齢六九(七五年生のスギ・ヒノキ人工林(〇・六杉)において、事業実行中の(株)東海林材市場と新城森林組合の協力を得て行われました。

当日は、獣害対策の概要、生産現場の作業システム及び実証結果(途中経過)等の説明のあと、急峻な谷地形で、先柱と元柱の支点間距離一七三センチ、支点間高低差六八センチの架線による集材の実演が行われました。実演は、高性能搬器のコンラッド社製・ウッドライナー2500による全幹集材・山土場集積、プロセスによる造材、極積みで行われました



ウッドライナーによる架線集材作業

(これらの高性能林業機械は公益財団法人 愛知県林業振興基金が貸付)。

生憎の雨となりましたが、参加者からは、システムにウッドライナーの価格、獣害防止柵に関する質問が出され、また、高性能林業機械を初めて見る参加者が、プロセッサが器用に行う、集材↓枝払い↓採寸↓玉切り↓極積みの様子を感じしながら興味深く見学するなど、充実した検討会となりました。

現在、こうした取り組みが各地域で進められており、多くの作業システムの提案がされています。

効率的な作業システムを地域の特性や事業体等にマッチングさせた木材の供給システムの確立を急がなければならぬと感じたところです。

「森林作業道作設オペレーター」

育成強化事業「現地検討会」

「名古屋事務所」十一月二十七日、伊那市信州大学手良沢ステーションにおいて、(一社)フォレスト・サーベイ主催の平成二十六年「森林作業道作設オペレーター」の育成事業・現地検討会」が開催され、森林作業道作設従事者、国及び県の担当者が参加しました。

国有林からは局・署等の職員十四名が参加し、総勢三六名で検討会が行われました。

今回の検討会は、施業地が従来の林分よりさらに奥地化し、施業地に至るまで



森林作業道現地検討会の様子

に急傾斜地やぜい弱地の箇所等を通過する頻度が増加する中、これらに対応した適切な路線選定や土工、構造物の設置等新たな課題に対応して行くために行われました。

午前中は、ポイント毎に講師から作設の考え方と現状等の説明があり、参加者らと意見交換・現地検討が行われ、午後からは、信州大学斎藤助教授から「森林作業道の作設技術」と題して講義を受け、意見交換が行われました。講義の中では長野県で作成した「CS立体図(旧微地形図)」の紹介もありました。これは「標高」「傾斜」「曲率」の三つの情報を異なる色調で彩色し、透過処理することで、等高線では表現が困難な情報を視覚情報として直感的に判読できるもので、この新しい図法を活用した急傾斜地

等での森林作業道作設の手法も紹介されました。林野庁は、平成二十二年十一月に森林作業道作設指針を制定し、補助事業により、平成二十五年末までに全国で四四九名の指導者と二、七四〇名の森林作業道作設オペレーターを育成してきました。



意見交換会の様子

また、森林作業道作設オペレーター養成用テキストが作成されていますが、今年度は急傾斜地での土工、まさ土・火山灰質粘性土(関東ローム層、黒ボク土)・シラスといった特殊土を中心としたぜい弱地に係る工法等についての補助教材も作成されることとなっています。

今後、公益的機能の高度発揮と持続可能な林業経営を進めていくための技術者等の育成に役立つものと期待されています。

各地からのたより

職業訓練のための実習用教材に地域材を供給

「木曾署」十二月四日、長野県上松技術専門校に実習用教材として、木曾谷の国有林で育ったミズメ、ナラ等、約四立方メートルの製材品を納品しました。

この取組は、本年三月に上松技術専門校、木曾官材市売協同組合及び木曾森林管理署の三者で締結した「職業訓練のための木曾産木材の供給と利用等に関する協定」に基づくもので、地域材を利用することや学習フィールドを提供することにより地域が育んできた産業と歴史を学び、地域の木材産業や伝統工芸を引き継ぐ多くの人材を育成していくことを目的としています。



製材された広葉樹



製材品を搬入する訓練生

製材品は、王滝国有林から生産された約六立米の広葉樹を木曾官材市売協同組合傘下の地元の製材所で製材した後、同校へ搬入したもので、同校の木工科と木材造形科の訓練生約四〇名の手により樹材種や大きさに別に分けられ資材置場に保管されました。製材品は二〜三年自然乾燥した後、家具製作等の資材として利用されます。

当日、訓練生からは、これまでの製材品と比べて木目や色艶の美しさの違いに驚く声が聞かれ、改めて木曾産広葉樹の魅力が再認識されました。

今後は、これらの取組を継続的に進めていくことにより、上松技術専門学校から巣立つ訓練生によって、技術と技能の継承が図られ、やがては木曾地域の木材産業の発展にも繋がるものと期待しています。

## 「運命の木」のご縁です

【東濃署】先ごろ、兵庫県神崎郡市川町役場の広畑地域振興課長ら一行四名が来署され、加子母裏木曾国有林（岐阜県中津川市）をご案内しました。

同町と国有林との関わりには、国宝であり世界遺産である姫路城天守閣の西の心柱にまつわる次のようなエピソードがあります。

「西の心柱」は、昭和の大修理（昭和三十一年〜三十三年）の際に腐っていることが判り、モミとツガの継ぎ柱からヒノキの通し柱に取り替えられることになりましたが、提供の申し出があった市川町の笠形神社のご神木は僅かに反りがあって断念するなど、天守閣を支えることのできる用材探しは難航を極めました。調達を請け負った業者が一年以上も全国を探し歩いた末に、ようやく加子母裏木曾国有林で条件にあう樹高三五メートル、胸高直径一・二メートル、根回り五・八メートルという木曾ヒノキを見つけました。

しかし、ホツとしたのも束の間、巨木から採材された長さ二八メートル、重さ一〇トンの柱は、当初の目論見であったヘリコプターでは大きすぎて搬出できず、これをどうやって運び出すかという難題に突き当たります。天守閣は既に組立が始まり新しい心柱の到着が待たれるばかりで、搬出路を新たに開設する猶予もあり

ません。深い谷を渡して対岸の森林鉄道に載せるといふ残された手段は調達業者の手に負えず、付知営林署（現東濃森林管理署）が立木の探索に続いてこの作業にも全面協力することになりました。

署での技術的検討の結果、向こう岸までスカイラインと呼ぶケーブルを三本張って巨大な材を吊し、集材機三台で引つ張る方法がとられました（通常は一本、一台）。差し渡し六〇〇メートルのケーブルを互いにバランス良く架け、三台の集材機の出力を調節して荷が暴れないように曳くというこれまで誰も経験したことのない難しい挑戦でしたが、架線集材機のベテラン達が腕をふるって成功に導き、木曾ヒノキの柱は無事に引き渡されました。

その後、この柱は、森林鉄道のカーブの大小に合わせて複数の台車を前後に移動させるなど町までの一五キロほどを何日もかけて慎重に運ばれましたが、あと少



架線搬出中（広報「みどり」から）

しのところでバランスが崩れて台車から落下し折れてしまいました。雪の中での探索からこれまで幾度も困難をくりくり抜けてきましたが、さすがに万事休す。

この窮地を救ったのが市川町笠形神社のご神木でした。氏子の皆さんが話し合いを重ねて決断したのだからと、一度はあきらめた提供を改めて承諾下さり、二本を継いで用いることになったのです。

姫路では何万人もの市民が木曾ヒノキとご神木を出迎えて祝い曳きが行われたのち、二本のヒノキを巧みに継ぎ合わせて心柱が立てられ、天守閣の大修理は見事に完工されました。

この逸話は、兵庫県の中学校道徳副読本に「運命の木」として紹介され、これにちなんだバウムクーヘンが人気を呼ぶなど、地域おこしにも一役買っているとのことでした。

当日は、この木曾ヒノキが運ばれた森林鉄道の軌道跡に一行をご案内して、搬出された谷筋を遠望し、当時の写真資料を用いて状況をご説明しました。広畑課長は、「これまで文献で見ただけでしたが実際の様子がよく分かりました。地元の関係者にも早速伝えたい。」とよろこんでいただきました。

市川町では、姫路城の平成の修理が来春終了することを機に、西の心柱を縁として、中津川市、姫路市と交流を深めていきたいとのことでした。

（本稿で用いた諸数値は、付知営林署



真剣に聞く園児たち

「中信署」十二月二日、隣接する松本市堀米保育園の年長園児十八名を招いて森林教室を行いました。

四月・五月に行った森林教室の第三弾として、スライドを使って絵本「ふゆめがつしょうだん」の読み聞かせを行いました。「ふゆめ」は樹種により色々な形があり、動物の顔に似た冬芽が写し出さ

「ミニクリスマスツリー」を作ろう！

経営課長（当時）として携わった福山幸七氏の手記を参考にしました。）



職員から説明を受ける皆さん

れると園児たちの笑いを誘いました。

樹木は冬芽で、動物は冬眠することで寒い冬を過ごし、暖かい春を待つことを学習していただきました。

続いて、松ぼっくりを使ったミニクリスマスツリー作りを行いました。職員があらかじめ園児の名前を焼きコテで土台に書いておいたので、名前が呼ばれると大きな声で返事をして、自分のツリーを受け取り、様々に模様を着色し、ビーズ等でデコレーションを楽しみました。

サプライズとして、「？ボックス」の中身を当ててもらいました。何が入っているのか、園児たちは恐る恐る箱の中に入れていました。中身はトナカイでは無くニホンジカの角でしたが、普段触ることの無い物を触ることができ大変喜んでいました。限られた時間ではありましたが、有意義な森林教室となりました。

白田保育園の園児が 東信森林管理署を訪問

「東信署」十一月二十一日、佐久市白田にある白田保育園の年中・年長の園児二十八名が、「勤労感謝訪問」のため、東信森林管理署を訪れました。

白田保育園の園児による「勤労感謝訪問」は、子供達が働く人達に感謝の気持ちを持ち「ありがとう。」を伝えることを目的に、近隣の職場を訪問しているもので、東信森林管理署への訪問は今回で



演技する園児たち

一〇回目（一〇周年）を迎えました。

園児達による発表では、署内の職員が見守る中、普段練習している和太鼓の演奏や、小さな身体を目一杯に使って表現するソーラン踊りが披露され、最後に、園児の代表から職員へ「いつもお仕事ご苦労さまです。」の言葉と共に、来年の干支である羊の切絵のプレゼントが贈呈されました。

質問コーナーでは、「どんな仕事をしていますのですか？」「木の栄養は何ですか？」等の質問があり、職員の代表による身振り手振りやボードに絵を書きながらの説明に、熱心に耳を傾けていました。

また、園児と職員の交流では木の輪切りを使ったネームストラップ作りを行い、「この木何の木？」と職員に質問したり、輪切りの匂いを嗅いだり、表面の

寄稿

肌触り確かめながら、個性的な作品を仕上げていました。

かつて木曾ヒノキや天然広葉樹を運材し、地域住民に愛され続けてきた森林鉄道に関する思い出や楽しい出来事などを、OBの皆様から、ご寄稿いただきました。国有林の歴史を示す貴重な財産としてここに掲載させていただきます。

上松町での買物

元長野局作業課 向井 弘氏

私が王滝営林署勤務となったのは、昭和四十年四月、長女が生まれて二ヶ月、二十六歳の時でした。官舎は王滝川と王滝川に沿って走る森林鉄道を望む高台にあり、官舎の皆さんが助け合って暮らしていました。春は恥ずかしそうに頭を持ち上げる蕨、夏は満天の星空、秋は檜の梢から昇る月、冬は零下一〇度の中の静寂。

四季折々の顔を見せてくれる王滝村での生活でしたが、唯一の楽しみは土曜日の午後、職員通勤用の森林鉄道に乗車し、上松町へ行くことでした。

上松町では妻と手分けをしての買い物と、街の空気に触れ、一時間後に再び森林鉄道に揺られ王滝村へと帰ってきました。車窓には鬼淵鉄橋、国鉄のSL、木

曾の棧、木曾川を渡る鉄管橋、水力発電所、林鉄開田線の廃線跡、六段橋と愛知用水ダム、そして御嶽山、見飽きることのない一時間の旅でした。娘は妻の胸の中で眠り、私のリュックには買い出し物と少しばかりの夢が入っていました。二女が生まれたのは、本谷製品事業所（上松より林鉄で五三キロメートル）勤務で、六一号機関車の助手をして五味沢へ運材の応援にいった時でした。

王滝管林署では販売係二年、会計係一年、本谷製品一年・木曾谷連合公売（林鉄特発で上運署へ）、鞍掛製品から名古屋局熱田署への輸送販売（トラック輸送）、林鉄特発での出納員、そして機関車の助手等、四年間貴重な経験をさせていただきました。王滝村では森林鉄道と共に仕事があり、生活がありました。



本谷停車場



「南木曾支署 蘭森林事務所」

首席森林官 白子 和広

蘭森林事務所は木曾谷南端の南木曾町



「檜皮の森」原皮師

に所在し、担当部内は木曾谷左岸の最南部に位置しています。

部内国有林は、旧妻籠管林署管内の大部分に当たり、木曾川支流の蘭川左岸に南蘭、蘭川右岸に北蘭、木曾川左岸に賤母国有林があり、管理する森林面積は、官行造林と併せ約五、三〇〇ヘクタールで南木曾町面積の四分の一に当たります。

部内には、中山道妻籠宿があり、外国人を含む多くの観光者が訪れています。

また、妻籠地区の国有林は中山道妻籠宿の背景林としての役割をもっています。

部内の地域は、林業・木工業の従事者が多く、地元産業としてサワラ桶・檜笠・ろくろ工芸も行われています。これらを踏まえ、部内に木の文化を支える森が二箇所設定されています。一つは、善光寺等の檜皮（ひわだ）葺きの屋根材として使用する檜皮の資材確保と原皮師（もとかわし）の育成を目的とした「檜皮の森」、もう一つは蘭檜笠及び木曾材木工芸品に使われる樹木の育成などを目的とした「南木曾伝統工芸の森」です。

このようなフィールドの提供等を通じて伝統文化の継承への貢献にも努めます。

また、地元の水源林であることも踏まえ、良質な木材生産と継続的な水の供給を目指す森林として「ヒノキ長伐期育成複層林施業モデル林」も設定されています。

当森林事務所は、森林官一名、森林技術員三名、非常勤職員一名（六ヶ月）の五名で、生産・造林などの請負監督、各種森林調査、境界管理などを行っています。森林保護に当たっては、林野巡視の中で森林被害の早期発見に努め、カシノナガキクイムシによる被害木の伐倒駆除、ツキノワグマによる皮むき被害防止のためのウイリーテープ巻き、ニホンジカ・ニホンカモシカの食害対策として忌避剤塗布などを行っています。また、センサーカメラによるニホンジカの生息調査を継続的に行っています。

管理関係では、「大平峠県民の森（長野県）」、「南木曾岳避難小屋（南木曾町）」などを貸付しています。南木曾岳避難小屋については今年度南木曾町により、環境保全型公衆トイレが建設され、環境面での整備が図られました。

昨年七月の集中豪雨では、南木曾岳周辺の国有林において、溪流より土石流の発生が見られました。これは花崗岩の深層風化（マサ土）と急峻な地形に加え、降雨量に起因するものです。この災害に対して治山ダムの新設等の災害復旧工事を実施することとしています。

今後とも職員間で地域情報を共有し、



大平峠県民の森遊歩道

「地域にあつて、地域と共同した森林施業と管理を行う森林」を目指し、業務を進めていきたいと考えています。

遊んで、食べて、応援しよう

平成二十六年九月二十七日、長野県と岐阜県にまたがる御嶽山が噴火しました。また、同年十一月二十二日、長野県北部で最大震度六弱の地震が発生しました。これらの地域では、風評被害による観光客の減少が心配されています。

この冬、ご家族で、また友人を誘ってのスキーや地元食材の購入など皆様の応援をお願いします。



二〇一四年 主な出来事

◆1月◆ 29 中部森林技術交流発表会 (30 中部局)



表彰式後の発表者及び審査員の方々

◆2月◆ 3 森林管理署長等会議 (4 中部局) 6 桶・樽サミット (木曽町) 24 国有林の地域別の森林計画等検討会 (中部局)

◆3月◆ 4 「木曽地方における温帯性針葉樹林の保護・復元に向けた取組」第二回検討委員会・検討報告書の公表 (中部局)

6 治山・林道工事コンクール表彰式 (中部局)

10 民有林支援・連携担当者会議 (11 中信署、森技セ)

17 明治神宮復興造営工事写真中津川市へ贈呈 (東濃署)

24 「下呂市小坂町北東地区森林整備推進協定」締結 (岐阜署)



協定書を手にする代表者

26 森林・林業社会貢献活動への感謝状贈呈式 (中部局) 26 「職業訓練のための木曽産木材の供給と利用等に関する協定」締結 (木曽署)

28 第一回長野県森林整備推進連絡会議 (長野市)

◆4月◆ 23 ヒノキコンテナ苗見学会 (岐阜署・森技セ)

29 みどりのフェスティバル (瀬戸市)

◆5月◆ 12 平成二十六年事業概要記者発表 (13 中部局)

16 長官感謝状授与式「利賀飛翔の会」 (富山署)

17 愛知県植樹祭 (日進市)

20 治山設計説明会 (21 中部局)

22 森林管理署長等会議 (23 中部局)

27 佐久地区森林祭 (東信署)

28 とやま森の祭典 (小矢部市)

28 次長等会議 (29 中部局)

30 国有林ゴミゼロ運動実施 (各署等)

31 上小地区森林祭 (東信署)

◆6月◆ 1 八ヶ岳開山祭 (東信署)

3 民有林支援・連携担当者会議 (4 南信署)

7 長野県植樹祭 (富士見町)

8 戸隠ふれあいの森植樹祭 (北信署)

10 富山県林政連絡会議 (富山市)

12 志賀高原ユネスコパーク拡張登録 (北信署)

14 北信州植樹祭 (北信署)

25 国有林モニター会議 (中部局)

26 「木曽地方における温帯性針葉樹林の保護・復元に向けた取組」第一回管理委員会 (27 木曽署)

30 永年勤続者表彰 (中部局)

◆7月◆ 8 長野林政協議会 (中部局)

9 南木曽町土石流災害 (南木曽支署)

9 国有林野等所在市町村長有志協議会

16 長野労働局労働基準監督官実地研修 (愛知所)

16 高山植物等保護対策協議会 (木曽署)

23 第二十三回緑の少年団全国大会 (中部局)

24 民国連携によるシステム販売の締結 (木曽署)

27 「信州山の日」制定記念イベント (安曇野市)

28 岐阜県・愛知県林政連絡会議 (岐阜市)

30 野生生物保護管理研修 (飛騨署)

31 夏休み子どもふれあいデー (中部局)



局内での工作の様子



- 31 福島の子ども木曾ヒノキ備林見学 (～1東濃署)
- ◆8月◆
- 5 教職員及び一般参加者を対象とした森林・林業体験学習研修会(東信署)
- 7 教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会 (木曾署)
- 17 集中豪雨災害 (飛騨署)
- 18 森林経営計画キャラバン (～19愛知県)
- 21 葦毛湿原保護意見交換会 (豊橋市)
- 29 土岐市「治山工事」及び「官行造林」に関するパネル贈呈 (東濃署)
- ◆9月◆
- 2 中部森林管理局総合防災訓練 (中部局)
- 2 北アルプス双六池周辺の環境保全生活動 (飛騨署)



赤沢自然休養林で学ぶ教職員の皆さん

- 5 伐採・造林一貫作業システム勉強会 (愛知所)
- 9 雲ノ平植生復元事業現地検討会 (富山署)
- 9 技術者育成研修開講 (森技セ)
- 11 木曾駒ヶ岳植生復元ボランティア作業 (ふれセン)
- 17 伐採・造林一貫作業システム現地見学会 (愛知所)
- 17 治山現地検討会 (～19木曾署)
- 17 伐採・造林一貫作業システム現地見学会 (愛知所)
- 18 長野県西部地震復興三十周年シンポジウム及び現地見学会 (～19木曾署管内)
- 18 真弓峠・白鳥峠を越えておんたけ王滝に行こまいかツアー (～19東濃署)



長野県西部地震復興30周年シンポジウムの様子

- 26 「木曾駒ヶ岳ボランティア作業」十周年記念講演会 (ふれセン)
- 27 御嶽山噴火災害 (木曾署・飛騨署・岐阜署)
- ◆10月◆
- 2 ドイツ技術者現地視察 (愛知所)
- 3 長和町統合保育園竣工式 (東信署)
- 3 森林ボランティア・NPO連携会議 (～4下諏訪町)
- 7 漁民の森林づくり活動 (愛知所)
- 8 国有林モニター会議(現地見学) (南信署)
- 9 「木曾地方における温帯性針葉樹林の保護・復元に向けた取組」第二回管理委員会 (～10東濃署)
- 10 温帯性針葉樹林の保護・復元に向けた取組を行う地域の愛称「木曾悠久



現地で説明を受けるモニターの皆さん

- 15 の森」に決定 実践研修開講 (森技セ)
- 20 中部森林管理局監査 (～23南信署・南木曾支署・岐阜署)
- 23 中部山岳森林計画区地区懇談会 (中信署)
- 31 木曾川流域等所在市町村長有志協議会現地視察 (東濃署)
- ◆11月◆
- 6 准フォレスター連携会議 (～7下呂市)
- 6 林政記者クラブ現地視察 (～7東濃署・岐阜署外)
- 13 森林管理署長等会議 (～14中部局)
- 17 会計検査院実地検査 (～20東信署・南信署・飛騨署・東濃署・局)
- 21 第二回長野県森林整備推進連絡会議 (中部局)
- 22 長野県神城断層地震災害 (北信署・中信署)
- 26 伐採・造林一貫作業システム現地説明会 (東信署)
- 27 ヤツガタケトウヒ保護管理検討委員会 (南信署)
- 28 中部森林管理局有志協議会連絡協議会 (松本市)
- ◆12月◆
- 10 保護林モニタリング検討委員会 (～11木曾署)
- 16 低コスト化作業勉強会 (中部局)
- 16 次世代架線集材勉強会 (中部局)



雨晴海岸

◆富山湾と立山連峰  
 雨晴海岸は、海越しに浮かぶ三〇〇〇メートル級の立山連峰の景観を望むことができ、古くは越中国司として在任した大伴家持に「万葉集」で「馬並（な）めていざ打ち行かな洪谿（しぶたに）の清き磯廻（いそま）に寄する波見に」と詠まれました。また、景観が素晴らしいことから、二〇一四年には「世界で最も美しい湾クラブ」に国内では、松島湾に次

ご当地自慢

富山県高岡市編

21

富山森林管理署



ドラえもんトラム



忍者ハットリ君列車

◆高岡市の鉄道  
 いで二カ所目の加盟となりました。「世界で最も美しい湾クラブ」とは、湾を生かした観光振興と資源保護、そこに暮らす人々の生活様式や伝統の継承、及び景観保全を目的に一九九七年にドイツのベルリンで設立されました。また、富山県の観光パンフレットに雨晴海岸から望む立山連峰の景観が使われています。



瑞龍寺 山門

◆富山県唯一の国宝  
 漫画家の藤子不二雄の二人は、高岡市とゆかりが深く、高岡駅から「忍者ハットリ君列車」がJR氷見線やJR城端線を通り、高岡市と射水市を結ぶ万葉線では、「ドラえもんトラム」が運行され県外からの観光客からも好評を得ています。  
 瑞龍寺は、加賀藩二代藩主前田利長公の菩提寺として、三代藩主利常公が一六六三年に建立したものです。近世を通じて前田家の手厚い保護を受けていましたが明治時代にはいり、加賀藩の庇護を受けられなくなり、困窮して部材を売るため解体されました。  
 しかし、一九八五年から修理を十年ほ



高岡大仏

◆高岡銅器の職人・技術の結晶  
 どかけて行い一九九七年には、山門、仏殿、法堂が建造物としては法隆寺以来、奈良正倉院とともに国宝指定を受けました。  
 高岡大仏の原型師は地元の中野双山で、古式鑄造法である焼型重ね吹き技法で鑄造から着色までの全工程を高岡の職人たちの手で行った記念すべき大作です。  
 大仏の特徴としては、歌人、与謝野晶子が一九三三年高岡を訪れた際に、高岡大仏を「鎌倉大仏より一段と美男」と評したとも伝わり、端正な顔立ちの大仏とされています。

◆アクセス方法

- 雨晴海岸は JR 氷見線雨晴駅から徒歩三分
- ドラえもんトラムとハットリ君列車は JR 高岡駅下車
- 瑞龍寺と大仏は JR 高岡駅から徒歩十分